

にしだめん
西田面遺跡

所在地 日進市浅田町地内
調査理由 岩崎名古屋線建設
調査期間 平成16年1月～2月
調査面積 1,000㎡
担当者 藤岡幹根・永井宏幸



調査地点 (1/2.5万「平針」)

調査の経過 調査は、岩崎名古屋線建設の事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成16年1月から2月にかけて実施した。調査面積は1,000㎡である。

立地と環境 西田面遺跡は日進市の西部、浅田町地内に所在する。現在の国道153号線バイパス浅田町交差点の南東に位置し、天白川左岸域に展開する沖積地に立地する。現地標高は27m前後を測る。隣接する遺跡としては、古代から中世にかけての遺構・遺物を確認した三ヶ所遺跡が500m北東にある。

調査の概要 調査の結果、古代から近世にかけての遺構・遺物が確認された。

古代の遺構としては、土坑が3基、確認された。そのうち、SK04は須恵器長頸瓶が逆位に埋設された状態で見つかった。

中世の遺構としては、竪穴状遺構1基と土坑・ピット数基、東西方向と南北方向に延びる溝群が、調査区を横断するように確認された。これらの遺構はほぼ磁北に合わせた配置となり、自然地形に左右されない計画的な掘削が予想される。竪穴状遺構SB01は長軸方向の中軸線上に並ぶ柱穴が3ヶ所ある。また火所がなく、通常の竪穴住居と異なった性格が見いだせる。つまり、簡易的な構造を持つ作業小屋として捉えたい。このSB01に東接するSD10からは、尾張第7～8型式の灰釉系陶器を中心におびただしい量の陶器類が廃棄されていた。

遺跡の性格としては、屋敷地など居住域と考えるよりは、水田など生産域に関連した磁北を意識した計画的な空間、つまり中世条里制遺構が推定できる。 (永井宏幸)



B区全景



SB01